

○6番（井上宜久）

6番、井上宜久です。

通告どおり、平成24年度当初予算案と町長マニフェストの関連について、1項目、質問を行います。

我が国の政治経済が低迷を深める中、欧州の財政不安の影響や歴史的な円高の進行により景気回復がおくれ、企業収益の落ち込みが各自治体の財政状況に一段と厳しさを与える中で、24年度の予算編成が行われました。各自治体は、事務事業の見直し、人件費の削減、財政調整基金、独自の基金の取り崩し、臨時対策債等の発行で財源確保に当たり、一方、未曾有な被害をもたらした東日本大震災を教訓とした防災・減災、再生エネルギー対策、少子高齢化に伴う子育て、医療、福祉等の現実的な対応に迫られ、また幾つかの先々の課題を抱え、かつてない厳しさがうかがえました。

昨年4月、開成町では13年ぶりに町長選が実施され、府川町長が誕生しました。そして、町長にとって24年度の予算編成は初めてとなりました。各自治体同様、厳しい財政の中で、どう予算編成がされ、町長のマニフェストの内容がどう生かされているか、具体的に予算編成の過程と残された課題、町長マニフェストの予算への反映度を含め、各内容を中心に伺います。

一つは24年度の重点政策課題、二つ目は政策、財源の残された課題、そして三つ目は歳出入の改善策、四つ目は町長マニフェストの反映度、以上4点、よろしくお願いします。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

井上宜久議員のご質問にお答えします。

一番上の平成24年度の最重点政策課題において、詳しくは平成24年度当初予算の提案書趣旨説明で述べさせていただきますが、当年度の予算編成は、固定資産税の大幅な減収などに起因する歳入の減少と高齢者や障害者に対する扶助費の大幅な伸びなどに起因する歳出の増加の中で大型投資事業を継続する内容としました。平成24年度当初予算案の特徴をまとめると、大規模事業への積極的投資と町民サービスの質の向上を両立させたバランス重視の予算であり、昨年6月に発表したマニフェストの政策ビジョンの最初に取り上げた、より豊かな教育の町と、より災害に強い町を最重点政策課題として取り組みをいたします。

教育では、3年計画の2年目になる開成小学校大規模改修工事のほか、NPO法人と連携した学校向上推進事業の実施など質の高い教育の提供に努めます。

防災では、治水対策事業の積極的な推進による水害に強いまちづくりを含む各種防災対策を充実するほか、危機管理担当課長の配置や防災安全専門員の増員など防災対策の強化を図り、震災の発生や水害に対する危機管理の徹底と非常時の迅速な対応を実現したいと考えております。

また、第四次総合計画の最終年度として、マニフェストにも記載してある継続的

な大規模事業として南部地区土地区画整理事業の支援と、その周辺の基盤整備である4号調整池築造事業、町民との協働でデザインした松ノ木河原公園整備などの事業を実施したいと思っております。

2番目の質問ですが、残された課題につきましては、平成24年度を最終年度とする第四次総合計画の施策評価の中で取りまとめますが、これまでの達成状況を申し上げますと、平成22年度決算、すなわち後期基本計画6年のうち4年を経過した段階では、全375事業及び重点プロジェクト78事業とも65%前後の執行率となっております。未達成の事例として、庁舎耐震事業については、耐震補強のみを予定していましたが、建てかえを含めた全体調整が必要と考えられるため、後期基本計画期間内では執行しないことといたしました。また、町道119号線改良工事は、事業は進捗しているものの経済不況の中で優先順位、つまり財政的な観点から、達成率は50%以内のCランクとなっております。

平成25年度からスタートする第五次総合計画では、現総合計画実施計画の中で達成が難しいと思われる施策等の内容を踏まえながら、基本構想、基本計画や実施計画の策定の中で施策の位置づけを再検討いたします。なお、第五次総合計画の実施計画は、平成24年度秋をめどに作成する予定であります。

3番目の質問ですが、平成24年度当初予算要求段階では8億円もの財源不足があったため、歳出入にわたってさまざまな改善策を講じました。歳入では、直近の課税データや人口に関する資料をもとに税収傾向の分析、再計算をいたしました。投資的事業の財源確保のため、社会資本整備総合交付金を初めとする国・県支出金の再精査と、基盤整備等に充当可能な建設事業債を3億2,560万円計上するなど適切な発行に努めました。さらに、厳しい財政状況の中でも投資的事業を積極的に進めるために、財政調整基金を5,000万円取り崩すことといたしました。

歳出では、当初予算編成方針でも指示していますが、徹底した経費の削減、不要不急の事業の廃止、縮小など整理、統合に努めるとともに、継続する既存事業でも、最小の経費で最大の効果を上げるよう事業内容や実施方法などを検討いたしました。公用車は、更新予定時期でも整備等で使用可能なものは更新せずに、最小限の台数に絞り込みました。各種計画策定に当たっては、調査内容などを盛り込み、職員の関与を強めることで委託料の削減に努めました。重度障害者等年金や福祉タクシー利用助成などは、所得制限を導入することで真に必要な方々への助成制度に改めました。人件費では、地域手当の支給率を7%から5%に変更することで1,000万円近い削減となっております。

4番目の質問ですが、平成23年9月29日に開催した第1回開成町財政調整会議において、町長マニフェストと平成24年度重点事業についてを議題として、全職員が町長マニフェストに対し共通認識を持つとともに、重点事業への反映について調査をいたしました。マニフェストについては、既に平成23年度にスタートしているものの、ソフト施策である予算を伴わないものもありますが、関係市町との兼ね合いで早期に解決できない上、多額の財源を必要とするため第五次総合計画に位置づけてからスタートするものなどを除くと、90%程度の事業には着手できたと考えております。

平成23年度中のマニフェスト達成度を昨年末の時点で検証してみました。五つの政策ビジョンでは、より豊かな教育の町の達成度が70%で、全体でも56.2%の達成度と自分で評価をしております。三つの重点プロジェクトでは、3項目とも60%以上の達成と評価しており、平成24年度も引き続き達成度を上げていきたい分野と考えております。三つの検討課題では、広域連携の分野が長期的に取り組まなければならない事業が多く36%の達成度、全体でも46.4%、他に比べて達成度が低いと評価をしております。このような自己分析も踏まえ、マニフェストの達成に向けて平成24年度の予算執行に当たっていく所存であります。マニフェストを実現するためにも、町民の皆さんの目線で考え行動することを基本として、平成24年度は第五次総合計画を全力でつくり上げていくことが重要だと考えております。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

井上宜久君。

○6番（井上宜久）

それでは、再質問を行います。質問内容からいって、議案の審議と予算審議とダブる面もあろうかと思えますけれども、再質問としての親切丁寧な答弁をよろしくお願いいたします。

具体的な質問に入る前に、通告の趣旨説明でも述べましたけれども、府川町長にとって初めての予算編成となりました。大変厳しい財政の中で、大変ご苦勞されたと思えますけれども、まず、予算編成を通しての率直な感想をお願いしたいと思います。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

確かに、私が町長になって初めての部分で、わからないまま進んだというのがあります。一番、実感としては、税収、歳入がこんなにも少ないのかなと。もちろん、景気の低迷の中で税収減というのは、予想はしていましたが、ここまで、8億円、最初の予算をどうやって調整していくのかなという、副町長に大分頼った部分はあるのですけれども、そこが一番の思いです。町長になってやりたいことがたくさんありまして、盛況にやる分には予算がない分にはできないので、これはきちんと第五次総合計画の中で盛り込んでいながら、長期的な分野も含めて、きちんと4年間で町長マニフェストを実現していきたいと、そのように考えております。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

井上宜久君。

○6番（井上宜久）

なかなか思っているのに出せないご苦勞もあったというふうに思いますけれども、しつこいようですけれども、点数をつけるとしたら何点ぐらいをつけられますか。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

難しい質問ですね。議会の皆さんのあれが通れば100点だと私は思います。皆さん方の議会でこれから審議をしていただくのですけれども、きちんと説明をして通していただく、そうすれば100%の予算を組めたなと思います。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

井上宜久君。

○6番（井上宜久）

通告内容にないことをお聞きしました。ありがとうございました。

それでは、具体的な質問に入ります。1項目目の24年度の最重点政策課題についてです。昨年9月29日、第1回の財政調整会議が開催され、歳入面での固定資産税の大幅減収、歳出面での高齢者や障害者等に対する扶助費の増大で、厳しい財政の中で大規模事業への積極的投資と町民サービスの質の向上を前提に重点事業を組み立てられたというふうに思っています。それでお聞きしたいのは、24年度については第四次総合計画、後期基本計画ですけれども、最終年度に当たります。引き続き24年度に継続していく事業が多くあろうというふうに思いますけれども、ここで聞きしたいことは、24年度の総合計画の中の事業として新たに取組む事業はあるかどうか。その辺は、なければならないということで結構ですけれども。そして、二つ目は、新たな環境、それと社会的背景の中で求められている事業として力を注ぐ事業は何かということ。そして、三つ目は、財源の問題で先送りされた事業が発生したか。発生したとしたら、どんな事業であるか。この3点を、まずお聞きしたいと思います。

○議長（茅沼隆文）

行政推進部長。

○行政推進部長（芳山 忠）

総合計画の中で新規に加えたものということですが、説明をテレビにもちょっと言おうかと思っております。それぞれ既存事業の中でも新規の取組み等が入っておりますので、そういったものは省略して大きな中で申し上げますと、例えば、小水力発電の調査事業は新規と考えてよろしいかと思っております。新エネルギーの発電事業ということで、可能性の調査を行ってございます。また、松ノ木河原地区の公園の整備に着手いたします。これは、工事としては24年着手ということになっております。そのほかにも、例えば、防災のまちづくりの事業といたしましては防災行政無線のデジタル化の推進、こういったものが新規事業といたしたところになってこようかというふうに考えております。

新たな環境対策、今のご説明の部分とちょっと重複しておりますので、その辺でご理解いただければと思います。

それと、先送りした事業ということですが、これは、特に、総合計画の進捗等と関連いたしますと、やはり、いわゆる都市基盤整備の部分、道路整備の部分を中心にある程度先送りで、全体的に先送り傾向にあると。そのほかには、実は、

町長答弁の中にもありましたけれども、公用車の更新事業があります。具体的なものを申し上げますと、例えば、町車、町のマイクロバスなんかも、もう更新時期にそろそろ来ているのですけれども、やはり相当金額が高額になるということで、整備点検の中で、もう少し今のバスを使っていきたいというところで先送りをさせていただきました。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

井上宜久君。

○6番（井上宜久）

小水力の問題について、これは確かに新しく出された問題だと思いますし、松ノ木河原については第四次総合計画の中に入った事業だというふうに解釈していいのですね。そのほかには、答弁された内容でお聞きしたいことがありますけれども、後から、また、そういう問題が出てくるというふうに思いますので、次に進みたいと思います。

整理しますと、24年度の重点施策課題というのは、答弁の中では、町長のマニフェストの関係から大きな柱としては、より豊かな教育の町、それと、より災害に強い町ということになると思います。もう1点、加えるならば、将来の希望の持てる町づくりの根底となる大型事業への支援というのが大きな柱になっていくのではないかなというふうに思っています。では、具体的に、教育、環境、防災、基盤整備、協働、この区分ごとに二、三、質問をしたいと思います。

まず、教育事業ですけれども、教育が町の原点と、まちづくりの原点ということで、町政運営の柱に位置づけをされていると思います。昨年と同じように、NPO法人と連携をした学力向上事業を実施し、質の高い教育を実践するとしていますけれども、この文章の中を見ますと、抽象的で、なかなか中身がよくわからないという問題がありますので、もう少し具体的に教育の中身、それと、この2年間で取り組まれた成果、できれば事例で、こういうあれがありますよということと、あと1年、さらに今後、この方針を充実させて継続をするということが先ほど答弁でありましたので、その辺の今後に向けての考え方、この3点を簡単に結構ですのでお願いします。

○議長（茅沼隆文）

教育総務課長。

○教育総務課長（井上 新）

お答えさせていただきます。学力向上策ということで、NPO法人と連携をとって事業を展開したということで、ことし初年度で実施をさせていただきましたけれども、具体のお話ということでございますので。まず、NPO法人のほうから、ことし2名、文命中学校のほうに来ていただいております。生徒とのかかわりの部分については、数学と英語の授業にそれぞれT2という形、先生を補完する形で入っていただいています。それで、これとはまた別に、スタディールームということで相談室を設けて、お昼休みであったり放課後、そういった時間を利用して、ちょっと授業についていけないであるとか基本的な部分で聞いてみたいといったよう

な疑問を持った場合に、気軽に、そういったところに行っていただいて授業の補完をするといったものが通常のパターン。それとはまた別に、夏休みであったりとか冬休み、この春休みも計画がございますけれども、補習授業を展開するという事で、ちょうど1、2年生を対象に、基礎学力といった部分を中心に、そういった補習を実施させていただくという形でございます。

中間報告につきましては、一度、ご報告をさせていただいた部分もございまして、非常に、参加した子どもたちの状況では、最初、入ったときよりも大変よくわかるようになったというような声も聞いているところでございます。こういったことを引き続き24年度におきましても実施をしていきたいという考えを教育委員会のほうでは持っています。

以上でございます。

○議長（茅沼隆文）

井上宜久君。

○6番（井上宜久）

3年間、そういった形で進めているということでありますので、さらに、その辺について、少しは新しい考え方も、ある程度入れ込んだ教育をしていただきたいなというふうに思います。

教育関係で、もう1点、お聞きしたいのは、これは町長のマニフェストで掲げられていますけれども、新幼稚園の検討というのは、23年度についても検討がされたというふうに思います。特に今、幼稚園、保育園の総合子ども園というものの検討が国のレベルで相当進んでいますので、23年度で新幼稚園についての検討がされたという、その辺の内容と、できれば総合子ども園、この辺が町とかのところに、どのレベルぐらいで、いつごろおりてくるのか、その辺の見通しがあったらお聞かせ願いたいと思います。

○議長（茅沼隆文）

教育長。

○教育長（鳥海 均）

ただいまの質問にお答えしたいと思います。

教育委員会では、幼稚園教育改革検討委員会というものを2年前に設立しまして、幅広く、町民のアンケートをもとにしながら検討を続けてまいりました。その方向性が今月、3月19日の最終会議をもって意見書という形で出てくる予定になっております。ご存じのように、当初、2年前に幼稚園教育改革検討委員会が設立されたころには、前町長もおっしゃっていましたように、第二幼稚園の建設を検討することが大きな課題として委員会の設立の内容になっていたように思います。ただ、今、議員がおっしゃるように、文科省と厚生労働省の関係で、いわゆる子ども園の状況が、平成15年度をもって総合子ども園にするという一つの方向は出たようなのですけれども、現実に子ども園をどのように運営していくのかということについては若干ぶれた部分がありまして、町としましては、それも参考にしながら意見を今、集約しているところです。

概略ですと、今、開成幼稚園に在籍している幼稚園児は、就学前児童が約2分の

1、1年生に入る子どもの数が170前後ですけれども、90人90人ぐらいになっております。ですから、幼稚園としては今は90、90、180人で4歳、5歳が……しています。町民のニーズでは、3歳児保育をどうするかとか、あるいは延長保育、預かり保育、言葉では難しいのですけれども、子どもの幼児教育のシステムについて、さまざまなスタイルがあります。それらを踏まえまして、先ほど申しましたように、3月19日をもって意見書が出てくるという状況です。細かなことにつきましては、検討委員会の内容をもって、また教育委員会としては検討していきたいというふうに思っております。

○議長（茅沼隆文）

井上宜久君。

○6番（井上宜久）

ありがとうございました。今の開成幼稚園も相当老朽化して、雨漏りですか、そういうものが始まっているというようなこともありますので、その辺も含め幼稚園の建設ということも考えていかなければならないのではないかなということ、その辺を含めて検討をお願いしたいというふうに思います。

あと、環境問題ですけれども、環境問題については、これは予算審議の中でまた出されてくるというふうに思いますけれども、今、県知事の政策の一つの大きな目玉という形で住宅用太陽発電装置、これの促進が図られまして、約11億何千万の予算が計上されるようであります。開成町についても23年度で相当の装置が導入されているというふうに思いますけれども、また予算審議の中で台数は出されてくると思いますけれども、できましたら、どのくらいの台数が設置されているのか。あわせて、24年度については、どういう目標をとって導入促進を図られるのか、その2点をお願いしたいと思います。

○議長（茅沼隆文）

環境防災課長。

○環境防災課長（加藤順一）

一昨年度からスタートしております住宅太陽光発電装置の補助事業でございます。当初、30基程度からスタートしまして、23年度につきましては補正も含めて40基に近かったと思います。すみません、ちょっと十分な数字を記憶してございませんが。来年度につきましては、今年度当初比較で1.5倍まで伸ばしていきたいと、このように考えているところでございます。

以上です

○議長（茅沼隆文）

教育総務課長。

○教育総務課長（井上新）

先ほどの教育長の答弁でちょっと訂正がございまして。認定子ども園の関係で、平成15年からというようなお話がございましたけれども、平成25年からの間違いでございました。大変失礼いたしました。

○議長（茅沼隆文）

井上宜久君。

○6番（井上宜久）

ありがとうございました。あと1点。特に、グリーンリサイクルセンターについてお聞きをしたかったですけれども、きょう、午前中、同僚の小林議員のほうからいろいろ出されておりましたので、その辺は省きたいと思えますけれども、議員の皆さんも相当、グリーンリサイクルセンターの経営状況について心配をされています。きょうの午前中のやりとりを聞いていましたら、経営以上に何か深刻な問題が発生しているということで、ちょっと心配をしているところですが、一刻も早く健全経営に向けて努力をしていただきたいと思います。また、ぜひ、この辺の事業については、広域化というものに向けて努力をしていただきたいと思います。

あと、そのほかの件では防災関係で、防災関係というのは非常に重要な取り組みであります。府川町長も相当、防災関係については力を入れられていますけれども、一つの例として治水対策、この辺について、やはり水害ということを考えると、相当な力を入れていかなければならないと思えますけれども。特に、この辺については、どここの箇所を整備しますよというような考え方では問題が出るのではないかなと思います。現在の河川をどういうふうな形で行政と町民が協働で改善していくか、そういったことが非常に大事になってくるのではないかなというふうに思います。昨年の10月に、そういった河川の件で、住民の役割、そして行政の役割について会議を持たれたというようなことでありましたので、会議を持たれて、どういうふうな方向、住民の役割が明確になったのかどうか、その辺の報告を参考に出していただきたいと思います。

○議長（茅沼隆文）

行政推進部長、

○行政推進部長（芳山 忠）

大変申しわけございません。10月の会議というのはちょっと認識しておりませんで、どういった会議なのか。ちょっとわかりませんので、申しわけありません。

○議長（茅沼隆文）

井上宜久君。

○6番（井上宜久）

台風の影響で、水害対策何々委員会というのがありましたね。その関係で、河川のせきの管理をどうしていくかという問題も含めて会議を持たれるというふうに聞いて、答弁もされましたので、その辺の内容です。

○議長（茅沼隆文）

街づくり推進課長。

○街づくり推進課長（瀬戸公雄）

大変失礼しました。昨年の10月になろうかと思えますけれども、右岸土地改良区を交えまして、右岸土地改良区の役員さんを交えて、河川の役割というものとせきの管理ということに対して説明会と意見統一というものをやった経過がございました。ある意味、理解してもらえたというふうには思っております。右岸土地改良区の役員さんには理解してもらったと。右岸土地改良区の役員さんが、またこれを

地元を持ち帰りまして、各農家等に、その辺は説明していただいているというふうには理解しています。

○議長（茅沼隆文）

井上宜久君。

○6番（井上宜久）

治水関連については、せきの管理というのが非常に重要になっているのです。私の地区でも何カ所かあるのですけれども、例えば、河川の清掃等で水をとめるとか、こういうときに、このせきは誰が管理しているのですかといってもなかなかわからないというような問題が何回か発生しましたので、ぜひ、せきの管理というものについては十分していただきたい。と同時に、今、河川の清掃というか、草刈りだとか、そういうものが非常に乱れていますので、ぜひ、治水対策に絡めて、そういった管理の仕方というか、そういうものは取り組みをちゃんとしていかなければならない問題だなというふうに思います。

あと、防災の組織体制をちょっとお聞きしたいのです。予算審議のときにも、こういう問題は細かいところまで聞けない問題がありますので、防災の組織体制で危機管理担当課長の配置、それと防火専門員の増加というものが出されていますけれども、この辺については初めて私たちも目にするところでもありますけれども、この辺の問題については今までどういう論議をされてきたのか。それと、現状の組織体制ではどこに問題があるのかとか、今、専門員というのは1名おられると思いますけれども、そういった専門員の業務の範疇はどういうふうになっているのかというようなところも、なかなか。町民の方は、1名増員になったりすることもわからない。町の職員だと思っているのです。そういうようなところが不明確だという問題もあります。こういう課長を置き専門員の増員を図る、こういうことによって、どういう体制がとれるのか、どういう姿が見えるのか、そういうところが全然わからないので。

この辺の細かいことについては、また予算審議のほうでお聞きをしていきたいと思っておりますけれども、できるだけ、こういう問題については事前に。いきなり予算審議の中に出されるのではなくて、ある程度、議会のほうにその辺の内容を説明してもらえば、より理解ができるのではないかなというふうに思いますので、これは1点、お願いしていききたいと思っております。

あわせて、もう1点。これは提案として受けとめをしていただきたいのですけれども、こういった新しい事業をするときには、事業シート、こういうものをつくって予算と一緒に提示してもらえないかと。シートそのものについては、私たちは昨年、県外視察で京丹後市、あそこへ行ってきました。非常にすばらしい事業シートが出されまして、そういうシートをもとに事業を理解する。議会サイドとしても、一般の町民に議会報告をするときには、そういった統一した資料をもとにしていけば説明もしやすいし、住民のほうも理解できるということでもありますので、特に、これは相当工数もかかりますので、できましたら新しい事業だけについて予算と一緒に提示してもらえないかなというふうに思いますけれども、その辺の見解を求めたいと思っております。

○議長（茅沼隆文）

副町長。

○副町長（小澤 均）

人事的な組織的な部分の見直しをさせていただくということなので、今、ご指摘いただいたとおり、人的な部分については、あらかじめ丁寧に議員さんのほうにご説明申し上げなくて大変申しわけございませんでした。先ほど町長のほうの答弁からご説明させていただいたとおり、近年の災害対策、そういった部分では、あらゆる災害が発生しやすくなっているというふうな状況に対応するために、危機管理、全体をくくって危機管理対応ということで専門の部局、部署を設けようかなといったことです。また、人的な部分では、やはり、ある種、人がころころ変わるというふうな状況ではなくて、できるだけ専門性を高めていくというふうなねらいも含めて、防災対策に当たる人間として、そういう部署を設けていきたいというふうにご考えております。

それに加えて、防災安全専門員ですとか、そういった方の補強もさせていただきたいなというふうにご考えています。今、専門員の方が特に各自主防のほうに出向いて、さまざまな自主防のほうの独自の防災訓練ですとか消火器の使い方ですとか、防災時に身につけておくべきことを教育いただいているような、研修していただいているようなところがありますので、その辺も、いざといったときには町民の方が主体的に動けるような取り組みをぜひ充実していきたいという観点の中で増員を考えたということでございます。

今の現状ですと、町民サービス部長、それから環境防災課長ということで、環境防災課長のほうでは、防災の関係、消防を含めて、そういうふうな関係と、あとは環境のほうも。一般質問でも、かなり広い分野の中で、町民の生活に密着するようなかかわりの深い業務を担っているというふうな現状を見たところでは、なかなか体制的には厳しいものがあるのかなというふうにごにいたく反省したところもございます。そういったところで危機管理担当部局を設けるということの中で、さらに充実をしていきたいなというふうにご考えております。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

行政推進部長。

○行政推進部長（芳山 忠）

後段のシートの関係でございますけれども、従来、予算提案の趣旨説明をさせていただくときに、主な事業施策の概要と新規事業について出したのですけれども、ここ難問か、その辺はそれほど目立つ新規事業もなくというところで外してしまった経緯があるのですが、今後、また改めて、予算の説明資料等もございますので、そういった部分の活用で新規事業が明記できるような形で検討したいというふうにご思います。

○議長（茅沼隆文）

井上宜久君。

○6番（井上宜久）

新規事業をどこまで、どういうレベルで見るとかというのは、これからの検討だと思いますけれども、京丹後市あたりの非常にいいシートもできていますので、ぜひ、この辺についてはお願いをしたいというふうに思います。

次に、基盤整備の中で、1点。松ノ木河原の公園の整備、これは24年度で計画されているようでもありますけれども、松ノ木河原については、たしか17年ごろだと思いますけれども、区画整理が終わって、18年に、2億5,000万円だと思いますけれども、土地を購入したと。そして、当初の予定ですと22年に実施計画をして23年に整備計画、工事に入るということでしたけれども、財源の問題で先送りされたということで、工事そのものは24年度という形になると思いますけれども。金額は、当時は、たしか5,000万円ということだったのですけれども、24年度では、そのレベルの金額と、公園の中身そのものは当初検討された内容で進むのかどうか。あわせて、公園といいますと、やはり中家村公園も非常に町の中心部の公園になろうかというふうに思いますけれども、中家村公園についても、特に24年度じゅうにどうのこうのというのは考えられていないようではすけれども、中家村公園というのを今後、どういうふうに考えていかれるのか、この2点についてお願いします。

○議長（茅沼隆文）

街づくり推進課長。

○街づくり推進課長（瀬戸公雄）

松ノ木河原の公園につきましては、今、議員がおっしゃっていただきましたように、いろいろな財政的な事情の中で若干おくれてきたと。来年度、整備のほうをしていきたいというふうに思っております。金額的には、議員が言われたものに近いというものでございます。内容なのですが、ちょっと手元に資料がないので何とも言えないのですが、これをやるに当たりましては、地元自治会と、自治会の方からいろいろ提案していただきまして、町職員と一緒に作り上げたものというふうに思っております。防災機能も、ある部分、兼ね備えた中で整備していきたいというふうには思っております。

あと中家村公園につきましてはですけれども、やはり、これも若干おけているのが実態であります。先ほどちょっと触れさせてもいただきましたが、24年度は松ノ木河原、そして25年度以降に中家村公園のほうには着手していきたいというふうには今、考えております。この内容につきましても、地元のほうで組織をつくっていただきまして、今まさに最終の詰めをやっている段階です。ということでございます。また詳しい内容ができましたら、議員さんのほうにも、その辺をお示ししていきたいというふうに考えております。

○議長（茅沼隆文）

井上宜久君。

○6番（井上宜久）

では、中家村公園についても、できるだけ。計画そのものは、当然、松ノ木が整備されて中家村公園はというような…、その辺の方向というのは、できるだけ早目に出していただきたいというふうに思います。

あと、協働事業で1点、お聞きします。町民活動応援補助金制度というのが今回出されておまして、この辺については町長の意向が強く出された制度だなというふうに私は思いますけれども、この辺は町民、企業、行政が一体となったまちづくりの一環という形で私もとらえていますけれども、この辺の中身についても初耳だということでもあります。そういった制度も援助をしていくということも大切なことだというふうに思いますけれども、私は、こういった制度はいつまでも続けていく制度ではないというふうに思っています。そのほかに、町の一つの方向として、もっといい制度が出せるのではないかなというふうに思っていますけれども。特に、私は、これからの開成町を考えるには、やはりいろいろな面でリーダーが必要でありますので、リーダーの育成といったような制度をつくって継続的にリーダーを育てていくというほうが、どちらかという大切なことというふうに思います。町民活動応援補助金制度も結構ですけれども、その辺の一つのリーダー育成というのも、今後、考えていただきたいなというふうに思います。

時間のほうが大分とられてしまって、あと残された課題についてお聞きをしたいと思います。第四次総合計画の施策の達成度については、2年を残した中で全体で65%の執行率だということ为先ほど答弁をされました。もう既に23年度は間もなく終了します。24年度の実施結果を見なければ、最終的にどうというようなことは言えませんけれども、先ほどの答弁のほうで庁舎の耐震事業、これは全体の建てかえを含めた中で検討するという先送り、119号線の改良工事についても、これは財源の問題で先送りするというにされていますけれども、政策課題として、私は、24年度中に、どうとらえていいかということで3点だけお聞きします。1点は、児童の安全確保をする上で南小学校の通学路、これは都市計画道路で県の管轄になろうかと思っておりますけれども、この辺の見通しと、あとは北部地域の活性化です。北部の振興といっても、なかなか具体的な中身が出てこないということがありますので、特にホテル公園あたりはどうなっているのかというのをちょっと聞きたいというのと、あと1点はパレットガーデンの集会所であります。昨年、突如として、私は複合施設を勧めていたのですがけれども、自治会独自の集会施設というものが出てきて、地元の方は、こういうものが出てきたからには、それなりの考え方があるのではないかなというような声も出てきているところであります。今の財源を考えた場合、非常に厳しい状況はわかりますけれども、こういう形が出た以上、考え方というのは第五次の総合計画では遅いと思いますので、一つの考え方そのものは、ぜひ24年度のある程度の時期で出していただきたいというふうに思いますけれども。簡単で結構です。今の三つの件で考え方がありましたら、お願いしたいと思います。

○議長（茅沼隆文）

副町長。

○副町長（小澤 均）

今、議員のほうで、それぞれ個別の課題案件ですとか、そういうふうなご指摘をいただいた部分なのでございますけれども、基本的には当初予算の中でご審議をいただきたいなというふうに思います。当然、町のほうで、その都度、課題整理をさせていた

だきながら議員の皆様へ情報提供させていただいております。その中で、それがどういうふうになっていくのかと。例えば、先ほども松ノ木河原の公園についてご説明させていただきましたけれども、中家村公園の整備も、今後は当然、今の計画の中の実施計画ベースの中には位置づけをされている部分があります。そういったものを順次、年次ごとに、それは財政のフレームを見ながら予算化をしているわけですから、それを今の段階でやりますというふうなことをはっきり明言することはなかなか厳しいと思います。それをいつやるのかということ、また、その都度、予算の審議の中でご審議をいただきたいなというふうに思います。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

井上宜久君。

○6番（井上宜久）

その辺の副町長の考え方は結構ですけれども、例えば、考え方でも、いつやるかどうかということではなくて、こういうことを考えていますよということは、当然、複合か単独かという考え方が出されたので、もう何カ月か経過していますので、その辺の考え方というのは明確にしてもらわないと混乱を招くだけだというふうに私は思いますので。その辺の考え方は、どうですか。

○議長（茅沼隆文）

副町長。

○副町長（小澤 均）

現時点も、次の第五次の総合計画で取り組みそのものを内部で詰めているところです。当然、今までの第四次の実施計画の中で、それぞれ事業を執行しているもの、達成しているもの、未達成のものというふうなものを、次の総合計画の中でも継続して位置づけをする必要があるのかどうかということは、今の段階で整理をさせていただいています。今後、総合計画の中で基本計画、その下の具体的な実施計画、そういったものを案として、またお示しをさせていただく時期が、この秋ぐらいまでには出てこようかと思います。そういう中で、これから計画というのを、12年間のうちで、前期6年でどんなことをやって後期6年でどんなことをやっていくのかというふうな計画をお示しをさせていただくようになると思います。そういう段階で、ぜひ積極的にご意見をいただきたいなと思っております。

○議長（茅沼隆文）

井上宜久君。

○6番（井上宜久）

しつこいようですけれども、そうしますと、集会所の問題については、あくまでも24年度中には、その辺の考え方が出されるというのはちょっと厳しいと。あくまでも総合計画の中で考え方が出されるということで、いいですか。

○議長（茅沼隆文）

いいですか、副町長。

○副町長（小澤 均）

パレットガーデン自治会の地域集会施設の関係については、残念ながら、現状の

課題意識としては町も当然持っております、ただ、それが実施計画の中で、まだ明確に位置づけがされていないというレベルになっています。基本的には予算措置は実施計画に位置づけられているということが一つのルールとしてなっておりますので、その辺は、地元のほうのお話をさせていただいた中で、また適地が早急に見つかるだとか、そういった状況の変化があれば、例えば24年度中に実施計画に盛り込みをして予算措置をしていくということも、究極的には、可能性としては全くないということにはならないと思いますけれども。ただ、もう当初予算の審議に入っているというような3月会議の中ですから、今の段階では、具体的に地元とそういうものが形になるというふうなレベルまでいっていないということで、位置づけそのものは次の計画のそういう段階になろうかというふうにはとらえています。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

井上宜久君。

○6番（井上宜久）

聞きたいことが、まだ半分しか聞いていないのですけれども、時間が大分迫ってまいりました。財政状況については、今回は臨時対策債とか土木債とか教育債、そういうものを含めて約6億7,500万の借金をしたということで、借金も100億を超えるということで、大分厳しい状況になってきたのだなということがありますので、諸事業に当たっては、できるだけ節約をし、節約をして事業を進めていただきたいなというふうに思います。

あと、町長のマニフェストの件で最後に聞きたいなと思いますけれども、町長のマニフェストについては、既に五つの政策ビジョンでは70%、全体でも56%ということで評価をされているわけです。この辺については、事業の実施度は上がっていますけれども、最終的には成果がどう出るかというのが問題ではないかなというふうに思いますけれども、特に、マニフェストの着工だけに満足しないで、いかに成果を出すかというところに、これから力を注いでいただきたいというふうに思います。

それと、三つの検討課題については、町長が就任されてまだ1年未満ということでもありますけれども、特に行革、税収対策、広域化、この辺については全勢力を注いでいただくことをお願いをしたいと思いますけれども。先述の三つの課題について、町長の意見があれば、全体的にちょっとまとめていただきたいなと思います。

○議長（茅沼隆文）

質問の趣旨が、いま一步、明確になっていないと思いますが。

井上宜久君。

○6番（井上宜久）

特に、これからに向けて、行政改革、税収対策、広域化、この3点についての見解をお願いしたいと思います。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

確かに、この三つの検討課題は早急に、すぐできる問題ではないと思っています。特に広域化については、相手があることですので、今後の眺望も含め、できるだけ広域は前向きに私は考えていきたいと。イベントも含めてでありますけれども。もちろん行政改革と財政的な話もあるのですけれども、まず今年度、基本的にやらなくてはいけないのは、第五次総合計画でワークショップの皆さんに提言していただいたものをきちんと12月議会に提案できるように全力を挙げたいと。

その前には、来年度前に3月11日の浸水訓練をやるのですけれども、災害対策に関しても危機管理担当課と同様に、できるだけ皆さんが今まで想定していたものを想定外と言わないようなことをきちんとやっていかなければいけない部分がありますから。その中で、今、お金がなくてもできる部分において、町長になってまだ1年たっていませんけれども、3月11日の浸水訓練は、その中の一つのソフトの部分においてすごく大事な部分だと私は思っています。いかに、この浸水訓練に全町民が目を向けてもらうか。今まで、浸水訓練はやったことがないのです。ないということは、避難勧告を出しても、皆さん、どういう行動をとったらいいかとか、多分、ほとんど理解されていないだろうと思っています。だからこそ、今回、集中して、各組長さんにも、各自治会を回りながら、お願いをしながら説明しております。外へ出る避難訓練をしなくてもできる訓練ということで、アンケートをお願いする形で、今、回り終えましたけれども、全部、下島も回りまして、そのような形で集中的に、来年度の前に3月11日を最終の重要課題として取り組んでおりますので、ぜひ皆さん方のご協力をお願いしたいと思います。

財政的な話なのですけれども、なかなか厳しいのは、事業の関係は他力本願になってしまいますけれども、それでなくてもできる部分においては、財政的な問題をきちんと把握しながら切り詰めながらやっていくと、それは当たり前のことだと私も思っております。そういった中で、どうやって町民の皆さんにその辺を理解していただくかという部分において、なかなか難しい部分はありますけれども、きちんとマニフェストに沿って来年度以降、24年度以降も取り組んでいきたいと思っております。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

井上宜久君。

○6番（井上宜久）

すみません、時間がオーバーしてしまっ。今回、24年度の予算審議に先立って、いろいろ答弁をしていただきました。私もなかなか思い切ったところまで聞けませんでしたけれども、答弁の中で町長が行動力をもってマニフェストを着実に実行されていることはわかりました。予算の中身についても、これからの本会議の中で議論をしていきたいというふうに思います。

最後に、総務課が掲げている「小さな投資で大きな成果」というものを大いに期待して質問を終わります。ありがとうございました。